

夕立勘五郎 (七卷)

帝キネ時代映畫

原作脚色者

監督者

撮影者

主演者

紹介

柳矢鍋尾内井政治恒
上井紋一郎
第二百九十六號

有來りの講談種を映畫にしたるものである。随つて何等映畫としての良さを摘出し得るものを見出せない。が大衆的な面白さ、一つの物語を盡さして動かせて見せるのに止つてあるが、それでも面白い。殊に演出者が告、充分に演じて居るのが目立つて居てよい。大庭佐四郎さ勘五郎さの交友關係をもつさ深く説明されて居てもよい。これでは佐四郎の役柄が漠然として居る。璃徳さ紋十郎の役々から感じられる旨味は少しある。いつもの事だが、勘五郎親子訣別の場面は少しありが利き過ぎた。ラストのスピードはいい。(鶴山版紹介説)

水町青磁

興行價

侠客物では相當に情味のあるもの

分呼物として使へるものだ。

(五月廿九日大阪芦邊劇場、神戸相生座封切)